

キャンヘルプタイランド会報

会員の皆様、ドナーの皆様、2022年もキャンヘルプタイランドの活動にご協力を賜り誠にありがとうございました。2022年は、長く続いたコロナ禍が収束に向かいつつあった年であったように思います。

タイでは、2022年10月に、入国規制がほぼ撤廃されコロナ前と同じように入国できるようになりました。外国人観光客の数は日に日に増え、今では、町のそこそこで外国人観光客を目にするようになりました。始めはインド、中東系の観光客が目につきましたが、次第に欧米系、そして中国からの観光客が増え、今では観光地ではコロナ前と変わらないほどの賑わいを見せています。タイ人の多くは相変わらずマスク着用を続けていますが、外国人観光客はそうではない人も多く、町でコロナはもう終わったのだと感じることも多くなりました。

ただし、すべてがコロナ前に戻るかと言えば、そうとも言い切れません。昨年1年の間にもタイ社会は大きく変わりました。その一つは物価高です。ロシアのウクライナ侵攻に伴う世界的な物価上昇の影響はタイにも及んでおり、ありとあらゆる物の値段が次々に上がっています。私が毎日立ち寄るコーヒースタンドのコーヒーも40バーツ(=156円)が45バーツ(=175円)になり、先日50バーツ(=195円)になりました。(スターバックスのコーヒーは100バーツ越えです。)食堂やレストランのメニューも気がついたら上がっている、といった感じで、給料が上がらないと生活は苦しくなるばかりです。

もう一つは、大麻合法化です。タイでは2022年6月に大麻の栽培、保持、吸引が合法化され、それと同時に、観光客が集まるような場所を中心に大麻ショップが次々につくられるようになりました。コンビニやスーパー等でも、ごく微量の大麻が入ったドリンクやデザート等が販売されるようになり、ちょっとしたブームになりました。一般のタイ人が本格的な大麻製品に殺到するようなことは起きていませんが、中毒者が急増しているという報道もあり警戒する人が多いことは確かです。私がよく行くチェンマイのオープンエアのカフェでは、大麻吸飲者のたまり場になっては堪らないと、喫煙コーナーを閉鎖し、全面禁煙にすることにしたとオーナーが言っていましたし、先日通りかかった中学高校の正門前には、「禁大麻」の看板が高々と掲げられていました。国の方でもあまりに拙速な法改正に批判が出て軌道修正を図っているようですが、特に教育の現場での拡がりは何

とか阻止してほしいものです。

さて、キャンヘルプタイランドでは、長らく草の根の顔の見える支援をモットーに活動を続けてきましたが、ここ数年は送金を中心とした支援をせざるを得ない時期が続きました。コロナに終わりが見え始めた今、原点に立ち返って顔の見える支援とその方法を模索していきたいと考えます。今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会長 西川 弘達

もくじ

1、活動一覧	2ページ
2、建設プログラム	3ページ
3、奨学金プログラム	4ページ
4、すみれ基金	5ページ
5、山岳少数民族支援	5ページ
6、ランチプログラム	6ページ
7、図書支援	6ページ
8、カンボジア支援	9ページ
9、国内活動	9ページ
10、会計報告	10ページ
11、理事運営委員紹介	12ページ
12、ご寄付のお願い	12ページ
13、会員募集と継続のお願い	12ページ

1、活動カレンダー（法人第8期） 2022年2月1日～2023年1月31日

日付	内 容	プログラム
2月10日(木)	ぼらマッチ協働会議	運 営
2月14日(月)	ムラのミライ研修 コーチング	運 営
2月15日(火)	名古屋 NGO センター理事会	運 営
2月19日(土)	理事会	運 営
3月4日(金)	運営スタッフ有志 Zoom 会議	運 営
3月10日(木)	ムラのミライ研修	運 営
3月12日(土)	多文化共生セミナーZoom 参加	運 営
3月18日(金)	運営スタッフ有志 Zoom 会議	運 営
4月3日(日)	総会	運 営
4月5日(火)	名古屋千種ロータリークラブ卓話	運 営
4月14日(木)	海ツアー出発(25日まで)	運 営
4月19日(火)	ぼらマッチ協働会議	運 営
5月11日(水)	プロボノ説明会	運 営
5月14日(土)	運営スタッフ有志 Zoom 会議	運 営
5月21日(土)	名古屋 NGO センター総会	運 営
5月27日(金)	プロボノ助成 Zoom 面談	運 営
5月28日(土)	運営委員会	運 営
6月16日(木)	ぼらマッチ協働会議	運 営
6月20日(月)	組織基盤強化研修	運 営
6月23日(木)	ムラのミライ東京研修	運 営
6月25日(土)	運営委員会	運 営
6月27日(月)	カンボジア奨学金授与式とタイ「カサロンの家」ツアー(7/10まで)	奨学金・給食
7月15日(金)	名城大付属高等学校課題探究発表会	山岳支援
7月21日(木)	ムラのミライ研修 Q&A	運 営
7月23日(土)	理事会	運 営
7月28日(火)	名古屋NGOセンター理事会	運 営
8月2日(火)	名古屋千種ロータリークラブ例会参加	運 営
8月3日(水)	ムラのミライ研修 最終発表会	運 営
8月18日(木)	「カサロンの家」中古PC支援出発 9月1日まで	山岳支援
9月20日(火)	名古屋NGOセンター理事会	運 営
9月25日(日)	奨学金資料翻訳会	奨学金
10月7日(金)	ぼらマッチ名古屋 2022 参加説明会 名古屋千種ロータリークラブ創立 40 周年記念式典参加	運 営
10月22日(土)	理事会兼運営委員会	運 営
11月22日(火)	名古屋NGOセンター理事会	運 営
11月26日(土)	運営委員会	運 営
12月3日(土)	ぼらマッチ名古屋 2022 出展	運 営
12月初旬	奨学生クリスマスカード発送	奨学金
12月10日(土)	国際協力カレッジ(オンライン)	運 営
12月11日(日)	絵本コンクール表彰式と難民キャンプ視察(24日まで)	運 営
1月21日(土)	運営委員会	運 営

※運営委員会は毎月第4土曜に開催予定

2、建設プログラム

2022 年度も、新型コロナウイルス感染症の為、建設プログラムは実施されませんでした。

2023 年度は、カンボジアの小学校から井戸建設の要望が届いていますので、名古屋千種ロータリークラブ様との連携も図りながら進めたいと考えています。

○過去のワークキャンプ実施校視察

2022 年 6 月 27 日からカンボジア奨学金授与式のついでに、タイのサッカーオ県にある 5 つの学校を訪問してきました。

- バーンカオディン学校（2015 年） 図書館
- バーンノンサメット学校（2002 年） 校舎
- バーンタイサマキー学校（2009 年） 多目的集会場
- バーンサイトーン学校（2002 年） 図書館
- バーンクロンタンマチャート学校（2008 年） 幼稚園舎



これらの学校はいずれも過去に建設ワークキャンプを行った学校で、その時に建てた建物の視察目的での訪問でした。突然の訪問にも関わらず、どの学校も温かく迎えてくれましたし、建設した校舎などもきれいに使用されていました。建設から 15 年以上が経過し、ところどころ天井が痛んできている部分もありましたが、すぐに修理が進むと思います。

このような突然の訪問は、学校にとっては大きな負担となりますが、関係性の継続や建物の維持管理にとっては、とても大切だと実感しました。



バークロンタンマチャート学校の幼稚園舎（2008 年建設）

右上の QR コードは、タイで過去に行った建設ワークキャンプ実施校をポイントしたグーグルマップです。また、当会のブログ（下の QR コード）にも詳しい記事がありますので、ぜひご覧ください。



<http://canhelpthailand.blogspot.com/>

○難民キャンプ視察

12 月には、今後の建設プログラムの可能性を調査するため視察をミャンマー国境にあるメーラ難民キャンプで実施しました。（詳しくは山岳少数民族支援プログラムで）

3、奨学金プログラム

タイ奨学金プログラム

2022年度は36名の子供たちに合計68万円を支援いたしました。昨年度からの繰越金4万円と今年度1月25日現在皆様からご寄付頂いた金額43万円と、不足した21万円は「指定なし寄付金」を充当させていただきました。なおその後にご寄付を頂きました5万円を次年度に繰越させていただきました。

今年度もコロナの影響で授与式を実施できなかった為奨学生に対しては、子供名義の口座への送金で支援を実施しました。

今年度の支援は昨年度の61名から25名減となりました。なお、後期分の申請をしなかったり課題を未提出に終わった子が5人いたため後期分の支援は31人となりました。

・奨学生の内訳（カッコ内は昨年比）

- *ムクダハーン県 … 7名 (-10) *ナコンパノム県 … 5名 (-3)
- *カラシン県 … 6名 (-4) *マハサラカーム県 … 10名 (-2)
- *ロイエット県 … 8名 (-6)

・申請書類、手紙の翻訳

昨年に続き愛知県に在住のタイ人と日本人の協力で9月25日に事務所にて翻訳会を実施し、翻訳した申請書類や手紙は12月にドナーの皆様にお送りいたしました。 翻訳作業風景→



・今年も12月中旬に奨学生36名全員にクリスマス&年賀カードを送りました。

・ドナーの皆様にお送りする書類と手紙は「使途が見える支援」を実現する事と、皆様から子供達への手紙等を送る際の資料となる事を目的としています。皆様からの手紙等を子供達は心待ちにしていますので、絵葉書でも結構ですでお待ちしています。（事務局へお送り頂きますればタイ語に翻訳して奨学生に送ります）

カンボジア奨学金プログラム

6月28日にカンボジアのサンパオルンで、小学校1年生～3年生の各学年10名の合計30名の子ども達へ80ドルずつ、計2,400ドルの支援を行いました。

3年ぶりに奨学金授与式を現地で実施することができましたが、久しぶりに再会したカンボジアの人達は皆さん元気そうで、コロナ禍のブランクをまったく感じませんでした。サンパオルン郡の郡長さんは新しい人に交代していましたが、教育委員会のアンさんのご尽力もあり、顔つなぎをすることができました。

小学1年生から3年生までの奨学金支援のため、実際に会った事のある子ども達は皆4年生になり奨学金の対象から外れてしまったので、今回の授与式は初顔合わせの子どもばかりで皆が緊張していましたが、元奨学生の女の子が会場に遊びに来て英語で話しかけてくれたので、すごく幸せな気持ちになりました。



4、すみれ基金（大学生奨学金）

2022年の大学生奨学金は、以下の1名の大学生奨学金支援を実施しました。

今期の7月にオラタイさんが卒業すると、すみれ基金大学生奨学金は終了となります。

Orathai Muelae オラタイ（女）メーファールアン大学看護学部。
（2023年7月に卒業予定）

5、山岳部少数民族支援プログラム

タイへの入国規制も徐々に緩和されてきたので、コロナ禍で傷ついてしまった関連団体との繋がりを修復すべく、2022年度は4度の渡航を実行しました。その中で山岳少数民族支援プログラムに関連するものとしては、【4月の海ツアー参加】【6月の名城大学附属高校の学生グループとタイの高校生とのオンライン交流の手伝い】【8月のリサイクルPC支援】【12月の難民キャンプ訪問】などがありました。

また、今年度も愛知大学とのコラボ企画である「タイボランティアツアー」が中止になり、まとまった支援ができませんでしたが、7月の下旬から約1か月間、愛知大学の女子学生がひとりで「カサロンの家」に滞在し、ボランティア活動を行いました。そして、8月19日には5名の女子学生、8月26日には2名の別の大学の男子学生が現地を訪問し、滞在費という形で支援を実施しました。少しずつ日本の大学生の流れが戻りつつありますので、2023年度も引き続き「カサロンの家」ツアーを盛り上げていきたいと考えています。

タイとミャンマーの国境付近で生活している山岳部で暮らす少数民族の人々は、つつましく生活しているのにも関わらず永年にわたって迫害の対象となってきました。そんな人々が安心して笑顔で生活できる様、キャンヘルプタイランドのできる範囲で支援の可能性を探っていききたいと思います。

○海ツアー

「希望の家」「カサロンの家」の子どもたちにとって、4年に1度のビッグイベントである「海ツアー」が今年の4月に開催されました。本来なら2021年に開催するはずでしたが、コロナで1年先延ばしになっていました。キャンヘルプタイランドはこのイベントに、海ツアー支援という形で援助しました。そのお金を使い、子どもたちに新鮮な海鮮を食べさせてあげることができました。



○名城大学附属高等学校課題探究

名城大学附属高校生グループの課題探究としてのオンライン交流会をお手伝いしました。「希望の家」「カサロンの家」で共同生活をしているタイの高校生との日本の高校生の各自宅とをオンラインで繋ぎ、英語での学校生活紹介やその後の質疑応答の形で実施されました。機材トラブルやネット回線の不調による会話のタイムラグなど様々な課題がありましたが、初回にしては上出来だったと思います。今後、5回10回と続けていくと、とても意味のある活動に発展していくと思うので、キャンヘルプタイランドが仲介しなくても、高校生自らがお互いのスケジュールを確認し合いながら実施できる状態にまでこの活動を育てていきたいです。



○名古屋千種ロータリークラブ中古 PC 支援

「カサロンの家」や「希望の家」を運営しているユースチャリティー財団へ中古のノートパソコン 10 台を名古屋千種ロータリークラブ様からご支援いただきました。中古のリサイクル PC を再生し全国の市民団体等に配布している NPO イーパーツ様からノート PC を購入し、8 月に現地へ行くという大学生グループと手分けをして現地まで運びました。旅費等も含め総額 20 万円の支援となりました。



○難民キャンプ訪問

12 月 15 日から 17 日、タイとミャンマーの国境にあるターク県メーソッド郡にある主にカレン族が生活するメーラマオ村とメーラ難民キャンプ（主にミャンマーに暮らしていたカレン族のキャンプ）をユースチャリティー財団の協力のもと訪問することができました。

2019 年に”トヨタ車体ふれあいクラブ”様からご支援頂いた大量の古着の中から段ボール 4 箱分を現地に寄付することができ、また、名城大学付属高等学校の学生グループから預かった手作り布ナブキン 120 枚を難民キャンプで配りました。



6、ランチプログラム

2022 年度のランチプログラムは、山岳少数民族の子ども達のための学生寮「カサロンの家」への米購入金支援を行いました。「カサロンの家」では、自分たちで米も栽培していますが、姉妹寮の「希望の家」と合わせると 1 日で約 10 キロの米を消費し、自給自足には程遠い状況です。子ども達のためには、年間 3 トン以上の米を必要としますが、今回の支援で約 1, 5 トンの米を購入することができ、寮での年間の米消費量の 40% を賄うことができます。

7、図書支援プログラム

2022 年度「おおしま国際手作り絵本コンクール」に 4 作品を応募し、右ページ上の 3 作品が見事に入選いたしました。表彰式は、11 月 19 日（土）に富山県射水市のおおしま絵本館で開催され、当会が代理で表彰状を預かってきました。



作品名	作者	学年	受賞
たのしいぐるぐる	ナルモン チュンブーセーン	小6	奨励賞（北陸中日新聞賞）
Hugged Me	シリワン ティップセナー	高3	奨励賞（北陸中日新聞賞）
Bad Wizard	ナッパソン コーソン他	高2	入賞

12月13日（火）カラシン県とロイエット県へ、14日（水）にカンペーンペット県へ、それぞれ大島絵本館から預かった表彰状や記念品を作者へ直接届けるために現地入りしました。

おおしま国際手作り絵本コンクール2022賞状授与式に同行して

伊東 朋子

はじめに

キャンヘルプタイランドでは、図書支援プログラムの一環として毎年富山県射水市の絵本コンクールにタイの子どもの作品を出品してきました。2022年度は応募した4点のうち3点が受賞する結果となりました。

今回、これらの表彰状を届けにタイ東北部の学校を訪問する旅に同行させてもらう機会をいただいたので食レポもおりませで報告します。

12月13日 火曜日 カラシン・ロイエット

早朝5時、CANの坂さんとドンムアン空港に向かった。空港で現地FREE代表のムさんと待ち合わせている間に作品を覗いてみた。どの作品も手作りだけあって時間と労力をかけてあり、絵や文から子どもたちの素直な筆致がつぶさに伝わってきた。どんな子たちに会えるのだろう。とても楽しみだった。

ムさんと合流してロイエット行きの飛行機に搭乗した。空腹だったこともあり思わず機内食の広告に釘付けになった。CHA-MENというカップ麺のような形態で中から箸でうどんを持ち上げたもの。よく見るとブラウンミルクティの中にこんにゃく麺と目玉焼き風ゼリーが入ってるスイーツだった。さらにお弁当と餃子つきのスーパーコンボもあり idea of Japan で surprising and unique と説明がついていた。絶対タイでしかお目にかかれないと思う。興味津々だったが、狭い機内で餃子を食べる勇気がなかったのが悔やまれる。

到着後、ムさんの運転するレンタカーで2時間ほど移動した。遅い朝食のスープ付きバミー（黄麺）を食べる。素朴な味で、どこで食べても文句なしにおいしい。そのテーブルの上でプレゼントする日本の絵本にタイ語訳文をページごとにはさみ込む作業を始めた。4冊分でもけっこう時間がかかってしまった。応募作品にももちろん日本語訳がついていた。CANの絵本プログラムはムさんの労力に負うところが大きいなあとあらためて感じ入る。

最初の訪問校は、カラシン県のナクラーパッターナー校。高3女子のシリワン・ティップセナーさんが「Hugged Me」という作品で奨励賞を受賞している。ムさんによると彼女は小学生からコンクールに参加していて、中学生からは個人で応募してきているという。そのせいか学校内で事情を把握している先生が少ないらしく日本からの突然の訪問客に対する当惑ぶりがかげがた。それでも副校長や教科担任に集まってもらって無事にシリワンさんに賞状を手渡すことができた。将来の夢はゲームクリエイターだそうで、画力もなかなかのものだった。インターネットやSNSなどの普及も影響しているのだろう。ポケモンが好きだとはかんで言っていた。

2校目の前に、昼食にソムタム（青パイアのサラダ）を食べ



たくてイサーン特有ののんびりとした村々の中をさがしまわった。ようやくたどり着いた店は、子どもが学校帰りに立ち寄るような小さな店だった。一つきりのテーブルに座って洗濯機の音を聞きながらルックチンピン(焼きすり身団子の串)を食べた。出てきたびりびりエビ入りソムタムは日本人用にマイルドな味にしてあった。ムさんにはタイ本来のすごい辛さのカニ入りのもの。どちらもリーズナブルですごくおいしい。店を始めてまだひと月という女性店主の人柄がにじみ出る感じのいい店だった。

次に訪問したのはコナーデイ校で、先生方は中学生全員を集めて式会場を設置して待っていてくれた。この学校から出品していたのは中3男子のスメート・ピンチョンブーさん。残念ながら「遊園地のスライムどろぼう」は選外だったので、CANから「努力賞」という形で賞状を作って持っていった。

絵に幼さが残るもののストーリー展開がのびのびしていて個人的には好きな作品である。スメート君の表彰式の後、この学校の生徒で奨学金をもらっている数人がムさんに感謝の手紙を渡していた。さらにのど自慢コンクールに出場を控えている女生徒が度胸付けに民謡を歌ってくれた。なんでもありの会だったが、私たちを歓迎してくれている気持ちがいけなかった。この



学校はこれまで絵本コンクールに何度も参加しているので表敬訪問できてよかったと思う。

ロイエット県の最後の訪問校は、ノンウェーンブンガーン校で、ここは2007年夏のワークキャンプで私自身お世話になった学校である。宿舎にしていた校舎が立て替えられ新しい施設になっていたため記憶をたどるのに時間がかかった。でも先生方の何人かは見覚えがあり15年ぶりの再会に胸がいっぱいになった。奨励賞の作品「たのしいぐるぐる」は、文が小6女子のナルモン・チュンブーセーンさん、絵が小5女子のシリジャンヤー・ラライラートさんの共同制作によるものだ。学校生活など子どもの日常を明るく元気に表現したほほえましい内容だ。表彰式をするために通された部屋にはトロフィーや表彰状がたくさん飾ってあった。おおしま絵本コンクールの賞状もあり常連校のようだ。学校紹介のPVではシリジャンヤーさんが英語を流暢に話して出演していた。ふたりとも先生イチ押しの聡明な印象。一般的にタイ国内では表彰されると賞金が子どもに出て、指導者の評価につながるという。同一校に長年勤務する先生が多いのは腰をすえて指導に取り組めるからだろう。率直な話を聞きながら、この学校の先生の子どもたちに対する愛情と信念が静かに伝わってきた。

夕食に誘ってもらいまた昔の話で盛り上がった。ムさんの通訳のおかげだ。イサーン料理の店で次々といろいろな肉料理が運ばれてきた。独特の味付けで、牛肉の内臓と香味野菜の煮込みがカオニャオ(もち米)と劇的に合う。氷入りのビールで乾杯するとぐっと距離が近くなった。すっかりうちとけて別れるのが名残り惜しかった。

空港まで坂さんに運転してもらって間申し訳ないけど寝てしまった。バンコクのホテルに戻ったのは午後11時くらいでたただただ、やけに目がさえて荷物をまとめてからベッドに入った。

12月14日 水曜日 カンペンペット

早朝5時にホテルをチェックアウトして北バスターミナルへ向かう。今日は7時40分発のチェンマイ行き長距離バスに乗って、カンペンペットという町で下車して4校目の学校へ行く旅程。荷物が多いので移動が大変そう。バスの待合所でムさんと合流して、いすの上で5冊分の絵本にはさみ込み作業をおこなった。目的地まで6時間弱の長旅なので冷房対策のため着込んで乗車したら大正解だった。朝食用に菓子パンと水、オレンジジュースを配ってもらえるのはありがたい。途中寒さに耐え切れずバス内のトイレを利用してみた。ドアロックが壊れていて照明もつかない。悪戦苦闘してようや



くクリアした後蛇口をひねったら、ありえない方向に水が噴き出して左下半身がびしょぬれになった。ムさんに乗務員に伝えた方がいいか聞いたら「たぶんしばらくは改善されることはない」とのこと。理解できないがそういうものらしい。昼食は20分の休憩時間内に野菜炒めライスか麺。バスの料金の中にふくまれていてあわただしく食べた。

嵐過ぎ、カンペンペットに到着した。チャーターしたソンテオ(乗り合い自動車)で学校までいく道中、都会ではないが洗練されたたたずまいの町に驚いた。それもそのはずで、いにしへの王朝都市スコタイが近くにあるという。4校目のピットヤーコム校は城壁遺跡に囲まれた歴史的地区の一画にあった。この学校では、中2のグループによる共同作品「Bad Wizard」が入選を受賞している。文ナパソーン・コソーンさん、絵チュテイマー・ウンターさん(他3名)の5人である。タイミングの悪いことに訪問した日、5人とも外部でテストを受けていたため不在だった。対応してくれた若い男の先生が図書館に案内してくれた。何人かの先生が集まってくださり、代理で校長に賞状を受け取ってもらった。その校長が残って雑談の相手をしてくれた。在籍2700人のピットヤーコム校は県内でも有数の難関進学校であるらしい。タイの学校はほとんどが国立だが最近は県や市などの公立や私立の学校も増え始めているという。お金のかけ方で教育成果が変わってくるので、学校独自の特色を出すために先生たちが努力している話が興味深かった。最初に案内してくれた先生が絵本作りの指導に関わっていて現在講師として勤務していた。彼本人が中学生の頃から絵本コンクールに参加してきたという。今回受賞作品が出たことによってステップアップにつながっていきますようにと心から願いながら学校を後にした。

バスターミナルにもどるところでムさんとお別れだ。ムさんはまた長い時間をかけてバンコクへ、坂さんと私は後半のミッションに向かってターク県へ移動する。どこでも笑顔で迎えられたのはやっぱりムさんの人柄のおかげだ。ちょっとさびしいけどまた会えることを祈って明るく手を振った。

さいごに

賞状を渡してすべての訪問を終えた時はほっとしました。乗り物の手配や細かいスケジュールの打ち合わせはすべてムさんと坂さんに任せきりの気楽な同行旅でした。本当にお世話になり感謝しています。ハードで楽しくて貴重な体験の連続は刺激的でした。しばらくは元気に過ごせそうです。ありがとうございました。

8、カンボジア支援プログラム

2022年度もカンボジアへの緊急支援金の送金を断念しました。現地の状況や支援方法の妥当性を見極め、支援実施可能なタイミングになりましたら、支援を再開したいと考えます。よって、今年度のカンボジア緊急支援への指定寄付は、来年度へ繰越させていただきます。2021年度と2022年度で計45,000円となります。

9、国内活動

○ボラマッチなごや2022

12月3日(土)愛知学院大学名城公園キャンパスでボラマッチなごや2022が対面形式で開催されました。このイベントの趣旨は、ボランティアしたい人とボランティアを募集している団体とのマッチングですが、とても多くの方がキャンヘルプタイランドのブースに来てくださりました。



○国際協力カレッジ(オンライン)

毎年12月に名古屋NGOセンター主催で行われる「国際協力カレッジ」に今年も参加しました。例年ならJICA中部で開催されるイベントですが、今年もオンラインでの開催となりました。

10、会計報告（2022年度）

活動計算書

2022年 2月 1日 ～ 2023年 1月 31日 まで

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費	81,000	81,000
2. 受取寄付金		
(1)タイ		
奨学金事業	480,000	
建設事業	10,000	
給食事業	80,000	
図書支援事業	9,000	
山岳部少数民族事業	282,000	
(2)カンボジア		
奨学金事業	140,000	
緊急支援	30,000	
(3)その他寄付金		
指定なし寄付金	464,000	
(4)為替差益	421,931	
		1,916,931
3. 運営経費寄付金	40,000	40,000
5. その他収益		
受取利息	8,364	8,364
経常収益計		2,046,295
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)その他経費		
タイ奨学金事業	773,226	
タイ建設事業	129,153	
タイ給食事業	115,000	
タイ図書支援事業	36,742	
タイ山岳部少数民族事業	246,730	
カンボジア奨学金事業	415,193	
		1,716,044
2. 管理費		
(1)その他経費		
諸会費	10,000	
印刷製本費	5,000	
通信運搬費	40,917	
消耗品費	12,080	
賃借料	36,000	
支払手数料	2,288	
寄付金	4,000	
		110,285
経常費用計		1,826,329
当期正味財産増減額		219,966
前期繰越正味財産額		15,222,594
次期繰越正味財産額		15,442,560

貸借対照表

2023年 1月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	15,442,560		
流動資産合計		15,442,560	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			15,442,560
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		15,222,594	
当期正味財産増減額		219,966	
正味財産合計			15,442,560
負債及び正味財産合計			15,442,560

財産目録

2023年 1月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
郵貯銀行	5,034,394		
UFJ銀行キャン	6,967,390		
UFJ銀行西川	336,004		
バンコク銀行	3,104,772		
流動資産合計		15,442,560	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			15,442,560
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			15,442,560

事業別費用

(単位:円)

	費用										
	支援金	手数料	委託費	旅費	通信費	印刷費	消耗品	寄付金	諸会費	賃借料	費用合計
建設			22,255	106,898							129,153
奨学金(タイ)	697,600		57,290	5,000	8,336	5,000					773,226
奨学金(カンボジア)	326,446	880		87,867							415,193
図書支援	23,961			9,960			371	2450			36,742
給食支援	115,000										115,000
山岳少数民族支援	157,000			89,730							246,730
カンボジア支援											0
運 営		2,288			40,917	5,000	12,080	4,000	10,000	36,000	110,285
	1,320,007	3,168	79,545	299,455	49,253	10,000	12,451	6,450	10,000	36,000	1,826,329

2月18日(土)、久保卓己監事に監査を受けました。

11、2023年度の運営委員と理事の紹介

今年度は、特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドとして以下のような体制で運営いたします。

引き続き運営委員の募集を行っていますので、興味のある方は是非ご参加ください。

運営委員	西川 弘達 (理事長)	坂 茂樹 (副理事長)	松本 康裕 (理事)
	大矢 治夫	大矢 まゆ美	藤井 佳奈 寺島 優美
	横江 隆弘	伊東 朋子	加藤 信二

12、ご寄付のお願い

各プログラムへのご寄付をよろしくお願いいいたします。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項をご記入の上お振込み下さい。

尚、寄付金の使途の指定がない場合は、こちらで必要なプログラムで使用させていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1口	10,000円
ランチプログラム	1口	5,000円
建設プログラム	1口	5,000円
図書支援プログラム	1口	1,000円
山岳民族支援プログラム	1口	10,000円
カンボジア支援プログラム	1口	5,000円
運営基金	1口	1,000円
会費※	1年	3,000円

※ 会員制度とは…

会員になっていただいた方には、年2回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年1回、会費3,000円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド 番号：00280-2-43793

13、会員募集と継続のお願い

キャンヘルプタイランドでは、会の運営を円滑にするために運営費を支えていただける「会員」を募集しています。多くのNPOが寄付金の15～30%もの運営経費で運営されているのに対して、私たちは、わずか5%の経費しか計上していません。従って会員の皆さんの会費（年額3,000円）で運営費の不足分を補っているのが現実です。会員の皆さんには年2回の「ネットワーク通信」で活動の詳細をお伝えすると共に、各種行事のご案内もいたします。皆様のご協力をお待ちしております。

お問い合わせ先

住所：〒450-0001

愛知県名古屋市中村区那古野 1-44-17 嶋田ビル 203

キャンヘルプタイランド事務局

TEL：050-3578-5131

(事務所開設時間不定期 来所の事前予約必要)

Eメール：office@canhelp.jp

URL：http://canhelp.jp

特定非営利活動法人

キャンヘルプタイランド会報

Vol.8

ネットワーク通信 Vol.94 合併号

発行：NPOキャンヘルプタイランド

発行人：西川 弘達

編集人：坂 茂樹

発行日：2023年3月